



8月末までの貸し出し状況

2017年4月～8月の貸し出し冊数(学年別)

1年：342 2年：218 3年：704

総貸し出し冊数：1,264(日出総合高校図書館 1,125冊、大分県立図書館より139冊)

生徒一人あたり2.3冊の利用がありました。(昨年度925冊、一人あたり1.7冊)

多読者上位5名

- 1位 120冊(3年生)
- 2位 117冊(3年生)
- 3位 110冊(3年生)
- 4位 108冊(1年生)
- 5位 74冊(1年生)

よく読まれた本

- 1位 『生徒会の一存シリーズ 富士見ファンタジア文庫』
- 2位 『やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。ガガガ文庫』
- 3位 大沢雅紀『反逆の勇者と道具袋』アルファポリス

よく読まれたマンガ

横山光輝『三国志』、横山光輝『項羽と劉邦』、山下和美『天才柳沢教授の生活』

第3回高等学校ビブリオバトル大分県大会

参加者募集のお知らせ

- ① 主催：大分県教育委員会、大分県学校図書館協議会
 - ② 開催日時・場所：11月5日(日)午前 大分県立図書館 詳細はHB棟1F図書館まで
- ※陽谷祭で今年もビブリオバトルを行う予定です。こちらも出場者募集中。(職員も可)

「ワタシの一行」 「ワタシの一文」

・「私、気になります」
ヒロインの千反田えるがよく口にする言葉で、このひとことから物語が始まります。身の回りにある様々な出来事を主人公の折木奉太郎と共に解決していきます（3年生）

米澤穂信『氷菓』
p28

・「どうしても、メモ帳どおりに行動しなきゃいけないのかな」真実を知った後の苦しくて切ない場面がとても印象的だった。一から読み返したくなる作品になっている。（3年生）

七月隆文『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』p213

・誰かと共有できない想い出には、何の意味もありはしないんだ。延命の代わりに世界からモノをひとつ消す取引をした主人公。モノが消えると相手の記憶から消えていくことに思い悩む主人公に共感した。（3年生）

涌井学『世界からボクが消えたなら』
p98

・住宅を工業化する最終的な目的は、高性能な住空間をつくることである。建築についてとても詳しく書かれています。将来建築関係の仕事に就きたい人には参考になる本です。（3年生）

東京大学建築デザイン研究室・編
『建築家は住宅でなにを考えているのか』 p134

・彼は決して甘い恩寵などではない。彼は劇薬なのだ。中には彼を嫌悪し、憎悪し、拒絶する者もいるだろう。しかし、それもまた彼の真実であり、彼を『体験』する者の中にある真実なのだ。（3年生）

恩田陸
『蜜蜂と遠雷』p28

・「さえも、蛍みたいに強くなりたい」短い命でも強く生きている蛍のように、兄と離ればなれになっても強い心を持ちたいと思う、さえの気持ちがよく伝わってきたから。（3年生）

川口雅幸『虹色ほたる』p300

・ほとんど毎日、犬や猫の殺処分をおこなっている。だからこそ、「処分のない日はホッとする」という。好きで処分しているわけではないから、収容場所に犬がこなかった時は、すごく嬉しいのだと心に響きました（3年生）

飯田基晴『犬と猫と人間と』p18

・長い物語の終わりに、陽は高く輝く。テレビゲーム『ICO』を小説化した本です。ゲームをプレイしたことがあってもなくても、とても楽しめる作品です。（3年生）

宮部みゆき『ICO 霧の城 下』p375

・かりそめの別離など蜃気楼、彼と私の心は無限の宇宙、私たちの愛は零の極致、会うも別離もない、はじめから一つの心なのだ。（3年生）

佐々木丸美『花嫁人形』p282

今回紹介した本は、図書館に展示しています。貸し出しできます。